



Unified Manager レポート

Active IQ Unified Manager

NetApp
October 15, 2025

目次

Unified Managerレポート	1
レポートを生成するためのアクセス ポイント	1
カスタム レポートを作成するためのUnified Managerデータベースへのアクセス	2
レポートに使用できるUnified Manager REST API	3
レポートを理解する	3
ビューとレポートの関係を理解する	3
レポートの種類	4
Active IQ Unified Managerレポート	4
レポート機能の制限事項	6
以前のバージョンのUnified Managerからの既存のレポート	6
スケジュールとレポートの関係	6
レポートの保護	6
イベント レポート	6
レポートの添付	6

Unified Managerレポート

Active IQ Unified Manager (旧称OnCommand Unified Manager) は、ONTAPストレージシステムのレポートを表示、カスタマイズ、ダウンロード、スケジュールする機能を提供します。レポートには、ストレージシステムの容量、健全性、パフォーマンス、セキュリティ、保護関係に関する詳細を表示できます。

Active IQ Unified Manager 9.6 で導入された新しい Unified Manager レポートおよびスケジュール機能は、Unified Manager バージョン 9.5 で廃止された以前のレポート エンジンに代わるものです。

ネットワークをさまざまな側面（ビュー）から確認することで、容量、健全性、パフォーマンス、セキュリティ、保護データに関する実用的な情報を得ることができます。このビューは、列の表示 / 非表示の切り替えと並べ替え、データのフィルタリングとソート、結果の検索によってカスタマイズできます。カスタムビューは、再利用できるように保存したり、レポートとしてダウンロードしたりできるほか、定期レポートとしてスケジュール設定してEメールで配布することができます。

Microsoft® Excel形式でビューをダウンロードしてカスタマイズできます。複雑な並べ替え、フィルタ、ピボット テーブル、グラフなど、Excelの高度な機能を使用できます。カスタマイズしたExcelレポートに問題がなければ、Excelファイルをアップロードして、レポートの定期的な生成時や共有時に使用できます。

Unified Managerでは、ユーザ インターフェイスからレポートを生成する以外にも、以下の方法を使用して健全性、セキュリティ、パフォーマンスのデータを抽出できます。

- Open Database Connectivity (ODBC) およびODBCのツールを使用してデータベースに直接アクセスし、クラスタの情報を取得する。
- Unified Manager REST APIを実行して、確認したい情報を返します。

このリリース以降のActive IQ Unified Managerでは、レポート機能が次のように拡張されています。

- 設定したスケジュールに従ってレポートのEメールが送信されます。オンデマンド レポートを生成した場合もEメールが送信されます。
- レポートのファイル名とメタデータには、レポートの生成元のホスト名が含まれます。そのため、ファイル名が変更されてもレポートの生成元のホスト名を特定できます。

レポートを生成するためのアクセス ポイント

Unified Manager でクラスタに関する情報を収集し、UI、MySQL データベース クエリ、REST API からレポートを作成できます。

ここでは、Unified ManagerのUIを使用したレポート作成とスケジュール設定について説明します。

Unified Manager が提供するレポート機能にアクセスするには、次の 3 つの方法があります。

- UIのインベントリ ページからデータを直接抽出する。
- Open Database Connectivity (ODBC) およびODBCのツールを使用して、使用可能なすべてのオブジェクトにアクセスする。
- Unified Manager REST API を実行して、確認する情報を返します。

ここでは、Unified ManagerのUIを使用したレポート作成とスケジュール設定について説明します。

カスタム レポートを作成するためのUnified Managerデータベースへのアクセス

Unified Manager は、監視対象のクラスタからのデータを保存するために MySQL データベースを使用します。データはMySQLデータベースのさまざまなスキーマに永続化されます。

次のデータベースからすべてのテーブルのデータを使用できます。

データベース	説明
netapp_model	ONTAPコントローラのオブジェクトに関するデータ。
netapp_model_view	ONTAPコントローラのオブジェクトに関するデータ。レポート ツールでの使用に適しています。
netapp_performance	クラスタ固有のパフォーマンス カウンタ。
ocum	UI のフィルタリング、並べ替え、および一部の派生フィールドの計算をサポートするための Unified Manager アプリケーション データと情報。
ocum_report	インベントリの構成と容量関連の情報のデータ。
ocum_report_birt	インベントリ設定と容量関連データのビュー。レポート ツールでの使用に適しています。
opm	パフォーマンスの設定としきい値の情報。
scalemonitor	Unified Manager アプリケーションの健全性とパフォーマンスの問題に関するデータ。
vmware_model	NetAppストレージでホストされているデータストアのVMwareオブジェクト データ。
vmware_model_view	NetAppストレージでホストされているデータストアのVMwareオブジェクト データのビュー。レポート ツールでの使用に適しています。
vmware_performance	NetAppストレージでホストされているデータストアのVMwareパフォーマンス カウンタ データ。

レポート ユーザ（レポート スキーマ ロールを持つデータベース ユーザ）は、これらのテーブル内のデータにアクセスできます。このユーザーには、Unified Manager データベースからのレポートやその他のデータベース ビューへの読み取り専用アクセス権が直接付与されます。ユーザ データやクラスタのクレデンシャル情

報を含むテーブルにアクセスするための権限は付与されないことに注意してください。

レポートに使用できるUnified Manager REST API

REST API を使用すると、Unified Manager によってキャプチャされたヘルス、容量、パフォーマンス、およびセキュリティ情報を表示して、クラスターを管理できます。

REST APIはSwagger Webページから利用できます。Swagger Web ページにアクセスして、Unified Manager REST API ドキュメントを表示したり、API 呼び出しを手動で発行したりすることができます。Unified Manager Web UI のメニュー バーで、[ヘルプ] ボタンをクリックし、[API ドキュメント] を選択します。Unified Manager REST APIの詳細については、以下を参照してください。["Active IQ Unified Manager REST APIでの作業の開始"](#)。

REST APIにアクセスするには、オペレータ、ストレージ管理者、アプリケーション管理者のいずれかのロールが必要です。

レポートを理解する

レポートにはストレージ、ネットワーク、サービス品質、および保護関係に関する詳細情報が表示されます。この情報を基に、潜在的な問題を発生前に特定して解決することができます。

ビューをカスタマイズした場合は、再利用できるように名前を付けて保存できます。カスタマイズしたビューに基づいてレポートを定期的に行うようにスケジュール設定し、他のユーザと共有できます。また、Excel形式でビューをダウンロードし、高度なExcel機能を使用してカスタマイズしたあとでファイルをUnified Managerに再度アップロードすることもできます。カスタマイズしたビューを使用してレポートをスケジュール設定すると、アップロードしたExcelファイルを使用してレポートを作成し、共有することができます。

スケジュール設定されたレポートは、すべて[レポート スケジュール]ページから管理できます。



レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

レポートは、カンマ区切り値 (CSV) 、Excel、またはPDFファイルとしてダウンロードできます。

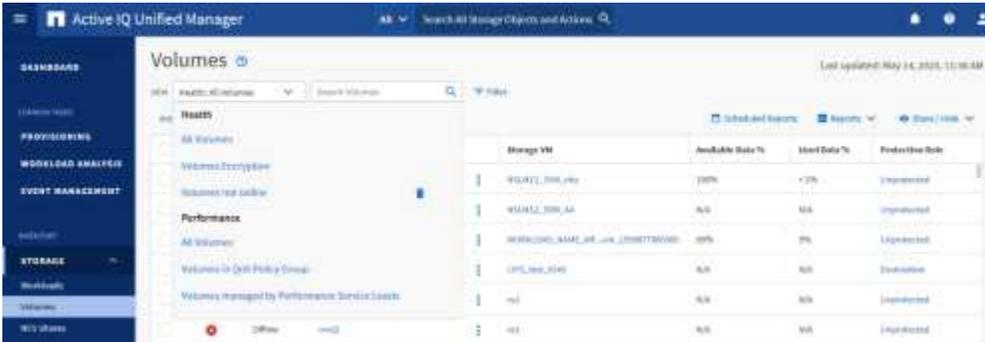
ビューとレポートの関係を理解する

ビューおよびインベントリ ページをダウンロードまたはスケジュール設定したものがレポートです。

ビューとインベントリ ページはカスタマイズして保存し、再利用することができます。Unified Managerで表示できるほぼすべての情報を、レポートとして保存、再利用、カスタマイズ、スケジュール設定、共有できます。

[表示]ドロップダウンで削除アイコンのある項目は、自分または他のユーザが作成した既存のカスタム ビューです。アイコンのない項目は、Unified Managerのデフォルト ビューです。デフォルト ビューを変更または削除することはできません。

- リストからカスタム ビューを削除すると、そのビューを使用するExcelファイルまたはスケジュール済みレポートもすべて削除されます。
- カスタム ビューを変更した場合、そのビューを使用するレポートに変更が反映されるのは、レポート スケジュールに従って次回レポートが生成されてEメールで送信される時です。ビューを変更する場合は、変更内容がExcelで行ったレポートのカスタマイズに対応することを確認してください。必要であれば、Excelファイルをダウンロードして必要な変更を加え、ビューに対して再度アップロードすれば、Excelファイルを更新できます。



削除アイコンが表示され、ビューやスケジュール済みレポートを変更したり削除したりできるのは、アプリケーション管理者ロールまたはストレージ管理者ロールのユーザだけです。

レポートの種類

次の表は、カスタマイズ、ダウンロード、およびスケジュール設定が可能なレポートとして使用できるビューとインベントリ ページの一覧です。

Active IQ Unified Managerレポート

タイプ	ストレージまたはネットワーク オブジェクト
容量	クラスター アグリゲート ボリューム qtree

タイプ	ストレージまたはネットワーク オブジェクト
健康	クラスタ ノード アグリゲート Storage VM ボリューム SMB/CIFS共有 NFS 共有
パフォーマンス	クラスタ ノード アグリゲート Storage VM ボリューム LUN NVMeネームスペース ネットワーク インターフェイス (LIF) ポート
QoS	従来のQoSポリシー グループ アダプティブQoSポリシー グループ パフォーマンス サービス レベル ポリシー グループ
ボリュームの保護関係 ([ボリューム] ページから)	すべての関係 過去1カ月の転送ステータス 過去1カ月の転送速度
セキュリティ	Storage VM クラスタ

レポート機能の制限事項

新しいActive IQ Unified Managerレポート機能には、注意すべきいくつかの制限があります。

以前のバージョンのUnified Managerからの既存のレポート

スケジュールと受信者を編集できるのは、Unified Manager 9.5以前のリリースで作成およびインポートされた既存のレポート（.rptdesignファイル）のみです。Unified Manager 9.5以前の標準レポートをカスタマイズしたレポートは、新しいレポート ツールにインポートされません。

rptdesignファイルからインポートした既存のレポートを編集する必要がある場合は、次のいずれかの操作を実行して、インポートしたレポートを削除してください。

- 新しいビューを作成し、作成したビューからレポートをスケジュールする（推奨）
- レポート上にカーソルを置き、SQLをコピーして、外部ツールを使用してデータを抽出する

デフォルト ビューは、カスタマイズしなくてもレポートとして生成できます。カスタム レポートは、新しいレポート機能を使用して再作成できます。

スケジュールとレポートの関係

保存したレポートごとに、受信者を任意に組み合わせて複数のスケジュールを作成できます。ただし、同じスケジュールを複数のレポートで再利用することはできません。

レポートの保護

適切な権限があるユーザであれば、誰でもレポートを編集または削除できます。保存したビューやスケジュールを、他のユーザが削除または変更できないようにする方法はありません。

イベント レポート

イベント ビューをカスタマイズしてレポートをCSV形式でダウンロードすることはできますが、イベント レポートを繰り返し生成して配信するようにスケジュール設定することはできません。

レポートの添付

レポートをEメールの本文として送信することはできません。レポートはPDF、Excel、またはCSV形式の添付ファイルとして送信されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。